

於て自由の人民が赤化とか共産主義とかの刻印を押されたことが日本の議會に報告されたことは皮肉極まる事ではないか、日本軍閥は今悲慘なる運命に陥て居るのだ、更に以上の様なことが議會計りでなく出版界にも現れて居る、事變勃發以來雑誌、新聞は全く軍閥の道具と化して居る全部灰色に塗りつぶされて居る、中央公論に於て戸澤鐵彦が論じて居るがそれを要約するに事變勃發以來官僚と軍閥の聯合政府が社會状況を理解せず、高圧を加へ今日非常に政治上の利害から必要以上に知識階級を壓迫し國內と國際状況を知らしめず公平なる意見の開陳を許さず國策を運べるのは賢明の政策とは云へない、と。論文の最後に於て戸澤は更に云つて居る國情を檢討し東亞に關する政治經濟の根本方策を決定し戦局の範圍を定め、何時、如何云ふ風に講和をなすべきかを決定するのに政治家が軍事に盲従して居るので軍事に連れて絶えず動搖し刻々變て居る、であるから東亞の政治經濟の根本方針を欠いて居る、言論の「インテリ」は卑屈と成り爲政者に迎合して適正なる意見の發表を控へる事に成り結局國事に冷淡となる、言論を壓迫し左右何れでもない人をば自由主義者である。自由主義者は悪人であるとなし官憲から庇護を受ける一部人士から曲解威嚇を受けるのである、政府は思想言論の統制を必要なる最少限度に止めるべきではないか、と。

以上で解る様に日本の内状は悲慘の極であり、「インテリ」と國民は國事に沈黙を守り左翼のものは逮捕投獄されて居る、戸澤の言は「インテリ」の軍閥に對する悲鳴なのである、我々は心から之に同情せざるを得ない、日本の皆様に此際認識して貰ひたいのは中國の抗戦は中國民族の生存の爲計りでなく、日本國民の解放のためのものでもあることである、皆様が一日も早く覺醒し抗戦に響應し日本軍閥を倒し東亞に平和と自由を實現しやうではないか

内閣情報部四・一 情報第二號

新南群島編入と佛の態度

—同盟來電—不發表

パリ三十一日發同盟

日本政府の新南群島の領土編入通告に關してフランス外務省スポークスマンは三十一日記者團に對し左の如く右に關するフランスの態度を明かにした。

「新南群島は疑ひもなく佛領である筈だ、然し同群島が佛領なりこの主張を明確に決定する爲め現在記録の慎重なる再検討を行はねばならぬ」

尙新南群島問題に關しパリに於ける消息通は

「今回の日本の行動の重要性は新南群島の東方殊に比島に對する日本勢力の象徴的發展にある」

この觀測を述べてゐる。

1950

情報第三號

—スペインも防共協定に参加—

同盟來電——不發表

四月廿一日下條同盟特派員發

赤色人民戰線を打倒し全國統一を成就したスペイン政府は今回、日獨伊防共協定に参加するに決定、既に一兩日前（廿九日か）ブルゴスに於て協定書に調印を了したことが判明した、スペインの新参加により防共戰線は極東の日本から地中海の西端まで滿洲國、ドイツ、イタリア、ハンガリーの六國を連ねる強固なものとなりこれは今後東西兩洋の新秩序と平和の建設に貢獻する所多大なるを期待されるに至つた